

再建基本プランの設定

項 目	内 容	
概 要	<p>○復元施設：庭園からの景観や吉田茂が大切にした居室の雰囲気を中心に、吉田五十八が広めた近代数奇屋建築を継承し、再現する。</p> <p>【本館】玄関、玄関ホール、応接間1階・2階、食堂、地下室、中庭</p> <p>【新館】金の間、銀の間、トイレ・浴室、新館への廊下（中2階）</p> <p>○新設施設：焼失部分の再建だけでなく、現行法令やバリアフリー、管理運営に対応する施設とする。</p> <p>【本館】事務室、休憩コーナー、展示等、トイレ、EV室、バリアフリー用入口</p> <p>【新館】EV室</p> <p>○屋根や外装は庭園との一体化に配慮した部材の選定を行うとともに、復元施設等を「重要な空間」と捉え、可能な範囲での再現に努めることとするが、表面に現れない部分等については、必要な機能を満たす範囲内での経費縮減を図る。</p>	
延床面積	約 700 m ²	
構 造	木造＋一部RC造 地下1階、地上2階建て	
主な仕様	構 造 材	景観は再建の重要な要素であるため、表面部分は焼失前の仕様である桧無節等と同等程度の材料選択に努めるものとするが、表面以外の部分については、経済的な材料を採用とする。
	外部仕上	吉田五十八建築の再建という視点も考慮し、焼失前の仕様と同等程度となるよう努めるものとする。
	内部仕上	焼失前の仕様と同等程度のもを基本に、床材などは見える部分や質感を変えない範囲において、経済的な材料を採用する。
動線形態	<p>○入口は、一般者用とバリアフリー用を設ける。</p> <p>○エレベーター及びスロープ設置（玄関ホールと食堂間の段差）により、バリアフリー対応を考慮する。</p>	
利 活 用	利活用や展示計画は、今後、県と町が協議の上、町が詳細を定める。	
内 装 等	内装、家具・調度品によりリアル感の充実に努める。	
講座・学習空間	地下室など再建空間を活用するとともに、県設置の公園管理棟においても、県と協調して実施することとする。	

※基本的な再建プランであるため、今後の詳細な検討において変更となる可能性があります。